

鳴門教育大学地域連携センター

1. 概要

所在地：〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

TEL 088-687-6101, FAX 687-6100 WEB <http://www.naruto-u.ac.jp/center/ccc/>

2. 教員名簿

所長 葛上秀文 教授（高度学校教育実践専攻）
所員 阪根健二 特命教授（高度学校教育実践専攻）
竹内 敏 特任教授（高度学校教育実践専攻）
藤田 完 特任教授（高度学校教育実践専攻）
谷村千絵 准教授（高度学校教育実践専攻）
事務担当 教務部 学術情報推進課 教育連携企画係

3. 活動報告

本センターは、学部・大学院・各種教育関係機関・地域社会との密接な連携のもと、教育に関する諸課題の解決や地域社会の教育力向上をめざし、教育実践・研究成果の公開や地域社会への啓発事業などを行っている。

本年度より、「セルフデザイン型学習支援センター」、「情報基盤センター」、「遠隔教育推進センター」で構成される「教員養成DX推進機構」が設置され、当センターの「教育情報コミュニケーション分野」の機能が移転された。一方、オーダーメイド型学校支援を推進する「学校支援分野」を新たに設置し、「教育連携コーディネイト分野」と2分野体制としてスタートした。現在設置の2分野は、生涯学習センター的な要素を持ちつつ、学校教育への支援を行うといった特徴を有している。

なお、教育・文化フォーラムは、本学では地域連携委員会（全学組織）で運営しているが、本センター業務の一環として、その庶務・渉外を担当している。

その他事務関係では、教育支援講師派遣、教育相談対応、教員研修などにかかる各種手続きや業務を事務担当係で運営している。今年度は、本学が当番校となったため、令和4年7月23日から8月10日までの期間において、社会教育主事講習を実施した。

(1) 地域連携委員会との連携（事業の企画・渉外・実施）

第47回鳴門教育大学教育・文化フォーラム（令和4年8月1日～8月10日開催）を実施した。今回のテーマは『GIGAスクール構想の定着－個別最適な学びの進展－』であった。開催方式は、新型コロナウイルス感染症対策と働き方改革推進のため、前年度に引き続きオンデマンド型で開催した。視聴期間内に自由にご覧いただき、各学校でよりよい実践の在り方について協議いただいた。参加者は、現職教員等284名であった。

(2) 学校支援分野

- (ア) 共同研究（－教育委員会や学校と連携した実践的共同研究－）の実施
- (イ) 教育支援講師・アドバイザー等派遣事業の実施

(3) 教育連携コーディネイト分野

- (ア) 徳島県、鳴門市及び鳴門市教育委員会との連携で、社会教育、いじめ問題などの各種審議会に参画した。（社会教育委員（阪根特命教授）、いじめ対策（池田教授）、鳴門市の教育事業（葛上教授、阪根教授）等）
- (イ) 四国5大学連携防災・減災研究教育協議会の一員として、運営会議に参画した。また、「四国国立5大学と国土交通省四国地方整備局との防災・減災・復興に係る包括的連携・協力に関する協定」を締結した。（令和4年6月30日）
- (ウ) 鳴門市と連携して、子ども向け美術鑑賞ワークショップ「N*CAP」の企画・推進。

4. その他の活動

- ・学校教育研究紀要の発行（令和5年2月）

<編集後記>

本年度より、本学も第4期中期目標期間（令和4年度～9年度）となり、センターの役割も変化することとなりました。予算の削減、大学全体としての人員の減少など、本センターを取り巻く環境は厳しさを募らせております。しかし、本学の地域連携、地域競争の拠点として、業務の選択と集中を図り、地域に貢献できる取り組みを実施していきたいと考えております。

本紀要は、昭和62年に「鳴門教育大学学校教育研究センター紀要」として発刊し、その後、「鳴門教育大学学校教育実践センター紀要」、「鳴門教育大学学校教育研究紀要」と名称変更を経て、現在に至っております。このたび、地域連携センター業務の見直しにより、センターの研究活動報告として刊行してまいりました「鳴門教育大学学校教育研究紀要」は、第37号をもって終刊することになりました。長きにわたり多くの関係者の皆様に、本センターの研究活動等に御支援を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。